

[原著論文]

日本語外来語の勉強法についての考え  
—中国人日本語学習者を中心に—

于 衛紅<sup>1)</sup> , 包 賀喜格図<sup>2)</sup>

Thinking on Japanese language learning approaches  
—Based on Chinese Japanese learners—

Weihong YU<sup>1)</sup> , Hexigetu BAO<sup>2)</sup>

Abstract

As the Japanese culture is gradually internationalized, learning Japanese has also become a new upsurge for numerous foreign students. At present, the learners of Japanese from all over the world has numbered up to about 3,600,000 and in many regions and areas, Japanese also works as a medium language, high-lightening its growing international influence. However, with a dramatic increase in foreign words flooding into Japanese language, more and more foreign students find it difficult to master. This article, focusing on the flooding state of foreign words, its influence on the mother language and favorable Japanese learning atmosphere, is intended to work out some learning strategies for those uncertain Chinese learners of Japanese language to make Japanese more convenient and practical to learn and help to build up students' confidence in learning Japanese language.

**KEY WORDS :** Japanese language; foreign words in Japanese; flooding state; learning approaches

1. はじめに

日本語学習者の中でもっとも便利で習得しやすいのは中国人だという考え方を持っている人は少なくないだろう。確かに、欧米人とその他のローマ字を利用する日本語学習者とくらべて、漢字文化のおかげで、ある程度日本語当用漢字にかかわる勉強が簡単になる可能性が存在している。一方、同形異意語に対して間違いやすいという短所もよくあらわれる。中国人日本語学習者にとって語彙習得の難点といえば日増しに増えている日本語の外来語だろう。外来語の過度使用は現代日本社会が直面しなければならない深刻な社会問題となっている<sup>1)</sup>。外国人日本語学習者にも余計な勉強

負担をかけたといっても過言ではない。日本語教育者の一員として、適当な対応策を探って、日本語学習者にわりと容易な学習環境を作るのは肝心な任務だといえる。長年の教学経験を生かして、日本語外来語の氾濫、その影響および中国人学習者へのアドバイスなどをめぐって少し自分なりの見方を発表したい。

2. 外来語の氾濫実態

外来語とは外国語から日本語の中に取り入れられた言葉である。外国語が日本語化した言葉である。外来語は外国語ではないが、外国語と深い関係を持っている。多くの外来語は外国語から生まれるのである。現

1) 内蒙古大学外国語学院  
2) 内蒙古大学外国語学院

1) Foreign Languages College of Inner Mongolia University  
2) Foreign Languages College of Inner Mongolia University

在、「日本語の外来語が氾濫している」という言い方はよく耳にする。じつは初の氾濫期は大正末から昭和初年までの間である。そのとき、外来語がたくさん使われて、第二次世界大戦中、一時的にその勢いが弱まった。戦後、再び外来語が幅広く近代日本語に進出し始めて、それから、政治、経済、科学、教育、社会、医療、芸能、スポーツなどの各分野、各職業に盛んに使われるようになった。これは欧米諸国との緊密な接触により、文化の影響を受けるとともに、外来語の増加も必然になったに違いない。

日本の社会学者の調査によれば、日本の上流社会に活躍している学者には新聞雑誌およびテレビ放送などの手段で情報を求めるために少なくとも五千前後の外来語を掌握しなければならないという。一般的な市民であっても、二千以上の外来語を知らないと、スムーズに他人とコミュニケーションできない実態である。でも、外来語を大量に使用すると意思の疎通に支障をきたす場合もある。日本人にとっても分かりにくい外来語は、日本語を学ぶ外国人にとってますます理解しにくいと考えられる。三省堂国語辞典（第二版）に収録された語彙は六万二千くらいである。その中に外来語の数量は六千以上、十分の一を占められていた。三省堂に出版されたポケット外来語辞典に二万以上の外来語が載られた。毎年一冊の外来語辞書を作っても、含められない外来語の語彙もけっこうある。これから、日本の国際的影響力の拡大に伴って、日本語も国際化される道をたどってゆくに違いない。外来語の数量も以前よりもっと増加する可能性も強くなってくる。

### 3. 外来語の影響

外来語が大量に日本人の生活に登場してきて、日本文化、日本人の生活、日本語学習者、日本語そのものにどんな影響がもたらされたか。これも多くの学者が関心していることだろう。もちろん、外来語の影響といえば積極的な影響と消極的な影響に分けて論述すべきである。

#### 1) マイナス影響

日本語の氾濫により、次のいくつかの影響が挙げられる。

- i) 従来に存在されてきた日本語語彙の体系を破壊される可能性もあるし、語源国語彙の誤用もよくある。

石綿敏雄の著書『日本語の中の外国語』の中に書い

てあるとおりに、近代の言語学では、音韻体系と文法体系を唱える一方、語彙にもやや緩やかな体系が存在している。外来語がはいつてくるとその体系が部分的に変更され、破壊されるようになる<sup>2</sup>。元々生活の便利のために造られた外来語がほとんど名詞として使われていた。例えば ガス、スイッチ、テーブル、ネクタイなど身の回りあるいは貿易関係の外来語はかなり多い。これに対して、現在その造語ルールはしばしば破られて、話の便利を図るために、語尾を適当に変えて、動詞、副詞、形容詞などに変身できるようになった。

例：

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| a ハードウェア               | ハード (名詞)    |
| b <u>ハードな</u> スケジュール   | ハードな (形容動詞) |
| a パンを <u>トースト</u> する   | トーストする (動詞) |
| b 朝食は <u>トースト</u> 二枚です | トースト (名詞)   |

また、英語などの外国語の名詞から見られる数の変化は日本語外来語では無視された。例えば、スポーツマンという単数形だけ取り入れたが、スポーツメンという複数形は採用されなかった。もちろん、多くの和製外来語には原語からの発音ずれ、意味の拡大と縮小、簡略化などの問題が存在しているので、よく日本語学習者に煩わされることになってしまった。

- ii) 外来語の大量使用で、固有の和製日本語の利用は控えられた。

日本人或いは日本で暮らしている外国人は毎日ラジオやテレビで耳にしたり、新聞、雑誌、店の掲示板などの広告類で膨大な数の外来語を目にするだろう。外来語の渦に埋まってしまう感じさえもする。身の回りのことについては外来語を使わないと、固有の日本語語彙でうまく表せないこともよくある。すなわち、一部分の外来語はもはや日本人一般が習慣的に使っている言葉になっていた。こういう状況を長く続けると固有の日本語語彙は日本社会から遠ざけられてしまうかもしれない。しかし、度を超えると、普通の日本人あるいは日本語を学習している外国人に余計な困難がかかってしまう疑いもある。

- iii) コミュニケーションが難しくなりつつあるし、

日本語固有の純粹の美を損なう可能性がある。

外来語が勢いに乗って日本人の生活に進入して、普通の家族内の話し合いにも影響される。年寄りと若者との対話に使う言葉は随分違って、子供の話がわからない親の気持ちはどうなる？ 恥ずかしいか、時代遅れの嘆きか。どれでも子供との距離感が生まれてしまう感慨だろう。特にマスコミに頻繁に出てきた膨大

な新出外来語に対して、多くの日本人にはわからないものがいっぱいあるという。日本にいる外国人と世界各地における日本語学習者といったら簡単にわかるわけではないだろう。また、日本語の伝統美を唱えてきた多くの日本人には外来語の氾濫に否定の態勢をとっている。昔からわかりやすい日本語は外来語の来襲でわかりづらくなるし、単一、純粹の造語法も複雑になってしまった。古い文化を受けてきた人々が外来語へ熱情を注ぎにくいのも当たり前のことだ。

## 2) プラス影響

i) 日本語の語彙量がより豊富になると同時に、日本語の表現も豊かになった。

外来語の補足で、各分野の専門用語の数がはなはだしく増えてきて、日本語語彙量は豊富になった。日本語は美しい言語だといわれるが、外来語により、その表現はもっとも新鮮で、婉曲になる感じがする。トイレという外来語は「洗面所」「お手洗い」の代わりに使用すると、何とか婉曲で、高貴的な感じにならないか。「低公害車」より「エコカー」という言い方はモデル感があふれているだろう。多くの人は外来語を多めに使うこそ、普通の人間と違い、優秀な人間であるその満足感が必要とする。デパートの宣伝用語にもお客さんが知らない外来語いっぱい書いて、従来の日本語で表出できないその微妙な変りで顧客の心理をつかむ技になっている。

ii) 外来語の使用は外国語の勉強意欲を促進できる。

多くの外来語に囲まれて、わからないなら教養がない人間と言われる心配があって、毎日そういう言葉を使いこなすようにがんばる。外来語の80%以上は英語から取り入れたので、語源国の言葉を覚えれば、大多数の外来語の意味が推測できる。日本では英語教育が普及されてきて、外来語の増加を促していた。それとともに、他人とスムーズにコミュニケーションできるために、多くの人が英語を勉強する意欲も燃やされるだろう。諸外国人日本語学習者も身につけた英語能力をいかして、日本語外来語の学習のコツとして利用したほうが良い。

iii) 外来語が日本語国際化の先駆けになる可能性がある。

日本文化が国際化された道をたどっていると同時に、日本語そのものも国際化されている。外来語はその言語国際化の先駆けとして重要な役割を果たした。

諸外国と交流しながら、外国の優秀なものを取り入れて、本国の特色文化を宣揚することになる。日本の

柔道文化、寿司文化などは国際化された代表的な文化である。毎年、日本語を学ぶ外国人も増えてつある。したがって、将来、日本語もリングア・フランカとして世界各地で交わされる可能性も強くなってくる。多くの語源から来ている外来語が日本語国際化の近道になれるかもしれない。

## 4. 外来語の勉強法についての考え

外来語の勉強方法といっても、すべての日本語学習者を対象とするものではない。本論文において、主に中国人日本語学習者が外来語を学ぶ方法或いは教師からの応対策をめぐって考えたい。ただし、日本に留学している中国人学習者が例外とされている。

### 1) 雑多な外来語から必要なものを選別する能力の育成。

日本人の若者文化の特徴のひとつは欧米人と欧米文化を崇拝し、よく真似をする。言語もその潮流に乗って、全然必要ではない外来語をよく作られて、時には流行語にもなれる実態である。それらの外来語は多くの人に認められず、生命力もわりと短く、いつの間にか消えてしまう。したがって、学習者は何の選択もなし、すべて学習任務として受け入れるのは大変なことになるし、使わないと、死語になり、学習者の自信まで損ねてしまう。したがって、学習者であれ、教育者であれ、他人の使っている外来語を分析し、必要なものを選んで盲目的な真似をしないほうが良いとおもう。

### 2) 個人の語学知識を生かし、英語と日本語外来語の勉強を互いに促進する。

中国で英語教育が小学校から普及し始めている。多くの日本語学習者が日本語を学ぶ時、英語レベルはかなり上達している。だから、英語知識を生かして、外来語の表記法則を沿いながら、自分なりの暗記法を探し、最大語源の英語から来た外来語の記憶と応用には役に立てる。フランス語、スペイン語、オランダ語などの語源から来ている外来語の数は相対的に少ないから、使いながら覚えられると思う。

### 3) 読み物を通して、外来語の量を拡大する。

日本語の原文新聞紙、雑誌などの読み物を購入して、指定された学生の課外読物あるいは素読教材、読解文教材として活用し、最新の外来語を接触するチャンスにあたえる。

テキストに載せている外来語が実際に応用されている外来語のほんの少ししかない。実際応用のとき、困らないために、別のルートから掌握する必要がある。各大学の日本語専攻が日本の多くの民間交流団体、教育部門と長続きの協定関係を結び、定期的に読み切れの新聞と雑誌を寄付してもらって、教育現場に活用したのは一番実用的な方法であろう。学習者は国際情勢を了解する同時に、最新外来語の利用、勉強もできるようになる。

#### 4) 教育者の力により、最新外来語を学習者に伝える。

日本社会で年寄りと比べて、若者のほうが外来語をよく使っているみたい。だから、日本人教師を招聘するとき、その割合を考えて、モデル文化と固有文化ともに学習できるのはありがたい。また、普通授業担当の日本語教師の日本語レベルアップにも力を入れるはずだ。外国語教育者として、教えながらその言語の勉強もしなければならない。定期的に外国での知識充電とか、各教育部門への専門研修とかなどの方法で自分の言語レベルを上達し、習った新しい実用的な言語知識を学習者に伝達できるようがんばらなければならない。

#### 5) 学習者自身の努力で言語応用のチャンスを作る。

外来語の学習が授業中にかぎられない。課外時間であっても、外来語あるいは日本語の勉強もできる。授業活動のほかに、課外時間を利用して、日本人と気楽に談話できる場をつくる。日本人教師、日本人留学生とともに日本語サロン、日本文化祭などいろいろな活動を行って、学習者の言語応用と交流の環境を営み、外来語知識の蓄積に役に立つと思う。

### 5. おわりに

外来語の大量使用は多くの外国人が悩まされている問題である。特にその外来語の聞き取りが一番難しいとよく言われている。日本語学習者の数は年々増えているし、日本語の国際的な影響力も以前より強くなるとおもう。したがって、国際化された日本語には外来語の数量がより一層増加していくかもしれない。今後、日本語教育の重点が少し外来語の方に移ってほしい。外来語に対する勉強方法の研究課題も目前に迫ってきた問題になるだろう。

Received date 2011年12月1日

注

- 1, 石綿敏雄, 『日本語の中の外国語』, 岩波書店, 1985年3月 P65
- 2, 石綿敏雄, 『日本語の中の外国語』, 岩波書店, 1985年3月 P158

#### 参考文献

- 1) 矢崎源九郎, 『日本の外来語』, 岩波書店, 1964年3月
- 2) 石綿敏雄, 『日本語の中の外国語』, 岩波書店, 1985年3月
- 3) ドナルド・キーン, 『日本語の美』, 中央公論新社, 2000年1月
- 4) 渡部昇一, 『日本語の心』, 講談社, 1974年10月
- 5) 岩淵悦太郎等, 『外来語』, 河出书房新社, 1993年1月
- 6) 张丽颖, 〈外来語对未来日语的影响〉, 《日语学习与研究》, 2002年第2期 89—92页
- 7) 晁春莲 〈困扰中国学习者的日语外来語问题〉, 《日语学习与研究》, 2005年增刊 67—71页
- 8) 金田一春彦など編集 『三省堂国語辞典』第二版